

私達は、昨年の12月25日、イエス様が生まれたことを記念する降誕日（クリスマス）から、昨日、1月6日、顕現日まで、降誕節を通してイエス様の誕生の出来事が、しだいに大きく広がったことを学んできました。

イエス様はベツレヘムというユダヤの片田舎にユダヤ人のひとりとして生まれたのですが、それが世界の救い主であったということ、顕現日の、外国からの占星術の学者がやってくることで表していました。そして今日は、イエス様がヨルダン川で洗礼を受けられたことを記念する礼拝を行っています。

人間には、その生涯を決定付けるような、節目の出来事がいろいろあります。学校への入学式とか、就職した入社式、また仕事を変えること、結婚すること、いろんな節目になる出来事があります。今から2000年前、イエス様の時代には、人間の平均の寿命は50歳くらいだったろうと言われていました。そして、ルカの福音書によると、イエス様が洗礼を受けて、宣教を始められた時は、およそ30歳であった、ということです。

その時までは、ナザレで家業の大工の仕事をしていたのですが、洗礼を受けることをきっかけにして、荒野で40日の誘惑を受けた後に、伝道活動をされることとなります。イエス様の洗礼というのは、そんなイエス様の生涯の節目であったことは、確かだろうと思います。

今日の福音書の9節～11節で、『そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。』という表現が出てきます。

この言葉を根拠にして、『イエス様は、元々は人間の一人だったが、神様の心に適う立派な方だったので、聖霊の力によって、特別に神様の子ども「養子になったんだ』という説明をする人たちが出てきました。この時から神様の力を受けて、各地で伝道し、いろんな奇跡を行うこともできるようになった、というわけです。

しかし、この考えは異端として退けられました。というのは、『イエス様は、人類全体を救うために神様から遣わされた救い主、神様そのものなんだ。人類の罪を帳消しにするための働きは、不完全な人間にできるはずがない。イエス様は、30歳で洗礼を受けた時、神様の子どもになったのでもなければ、ベツレヘムで生まれた時に、神の子になったわけでもない。すべてのものが造られる前から、神様のもとにおられた方なんだ。（これがクリスマスに読むヨハネによる福音書の証言ですね。）そしてその方が、人間の子として30歳まで育ったが、今、ついに神様の仕事を始められたんだ。』というのがこの洗礼の時、聖霊と天からの父なる神様の声で、示されている、ということなのです。

さて、イエス様がヨハネから洗礼を受ける前、ヨハネは悔い改めの洗礼を宣べ伝えていました。今日の福音書の少し前から読みます。1章5節から8節。

『ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。』』

ヨハネは、悔い改めのための洗礼を行っていました。今までの罪を悔やんで、正しい生き方に方向転換するように命じるためでした。しかし、イエス様はそんなヨハネよりウンと偉大な方だと、洗礼者のヨハネはイエス様のことを紹介しています。

そして、イエス様がヨハネから洗礼を受けられた時、水の中から上がると、霊が鳩のようにイエス様に降ってきます。これは聖霊の象徴でしょう。そして、天から「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と語る父なる神様の声がします。この場面を絵に描くと、父と子と聖霊の三位一体の神様が総登場ということになります。

イエス様は罪のない、神の子なのです。しかし、それだったら、罪のないイエス様は、わざわざ悔い改めの洗礼など受ける必要はないはずです。ところが、イエス様も洗礼を受けられたのです。

皆さんはこのイエス様がヨルダン川で洗礼を受けられた出来事を、ただ美しい絵として受け取るのではなく、罪のない方が洗礼を受けたことを、もっと納得のいく説明で理解しておく必要があるでしょう。もし、あなたが、このことについて質問されたら、どう答えますか？

イエス様は罪もないのに、どうして洗礼を受けたのでしょうか？ 洗礼を受ける必要がないのに、「洗礼とはこのように受けるものだよ。」と模範を示された、ということでしょうか？

洗礼を、この時はヨルダン川で行いました。川というのは、汚れたものを洗濯するところですね。私たちは生まれた時から罪を犯して、汚れた服を洗うように洗礼を受けたのですが、イエス様の場合は体も服も汚れていないのに、川に入る必要はないはずでしょう。それでは、どうして洗礼を受けたのか。

私は、イエス様の洗礼について、こんな風に話しています。イエス様は、人々を救うために川に飛び込んだ、ということです。そして、人類を救うためにイエス様は救助隊となって、きれいな服のまま水に入ったんだ、と私は説明しています。

イエス様は、神様と人間との間にある、断絶と言うか、両者を隔てる、大きな、流れの速い川に、今飛び込まれた、ということです。人間は、神様から離れて、川の中洲に取り残されてしまっているのです。水かさは増すばかりで、私たちはこのままの生活を続けていたのなら、孤独に溺れ死ぬのを待つばかりです。

そんな状態の人間を救うために、安全な岸の側にいる神様が、中洲にいる人々、人類のために、救い主、レスキュー隊を派遣して、30歳のイエス様が、ロープを抱えて、川に飛び込んでくださった。それがイエス様の洗礼ではないでしょうか。

それでは、私たちの洗礼というのはどういうことでしょうか。

パウロはローマの信徒への手紙6章3節～5節で、洗礼について次のように言っています。

『それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。』

死とか復活という表現があって、ちょっと難しいのですが、大切なことは「キリスト・イエスにあずかる」「結びつく」「一体となる」ということ。イエス様の姿、生き方にあずかる。イエス様のように成長する。そうなりたいために洗礼を受ける、ということではないでしょうか。ただ清めるだけではないと思うのです。イエス様と一緒に歩む決断をするのが、洗礼です。

人類を救うために、川に飛び込んだイエス様は、ご自身が先ず復活して天国へ行く道を切り開いてくださったのです。そして、私たちは、川の中で私たちを待っているイエス様と一緒にあって、イエス様に抱えられて安全な岸に着くことが私たちの救いになるのです。

そして、大切なことは、わたしたちがイエス様と一体になる、とは、イエス様の生き方を、自分の生き方にする。そうなりたいために、私たちは洗礼を受け、また、聖餐式で、キリストの肉と血をいただいて、ますますキリストに似るものになろう、とすることです。そして聖餐を通しての恵み、神様の力によってそうなる、という確信を持つことが、私たちのこれから天国の岸までの信仰生活だ、ということでしょう。

そして、イエス様が天国へ行く道を切り開いてくださった、その後続く生き方を人々に勧めるのが、文字通り「伝道」、道を伝える、ということだろうと思います。

今日はイエス様が洗礼を受けられたことを記念する日です。イエス様がわたしたちのために川に飛び込んで、安全な岸辺までの道をつけてくださった。それに従ってゆくのがわたしたちの洗礼であり、その生き方を人々に伝えることが伝道だ、ということ、改めて確認したいと思います。